

## 堀家住宅の利用を考える会

事務局所在地：総社市総社2-23-1 池ノ上方 代表者氏名：林 正実  
電話番号：0866-99-9353 090-7776-1063

### 文化活動の目的

総社市に寄付された江戸時代の豪商であり、岡山の洋画の先駆者と言われる堀<sup>ほり</sup>和<sup>わ</sup>平<sup>へい</sup>を生んだ堀家の土地と建物の再生と活用方法を考えることを目的として発足した。堀家を核として旧商店街の町並みも含めて文化によるまちづくりを進める。

### 文化活動の経過

平成15年4月、堀家の庭に集まったメンバーで「堀家住宅の利用を考える会」を発足させ、堀家の向かいの「まちかど郷土館」を借りて第1回目の例会を行い、会はスタートした。

以来調査と研究を重ね、平成15年11月に「総社まちなみ発見フォーラム」と「昔なつかしい総社のまちなみ写真展」を、平成16年2月にはA3版26ページの「総社市・堀家と旧市街地への構想計画」としてまとめ、総社市に提言書として提出した。

また平成16年9月には京都以西の56名のアーティストを備中国・総社宮に集め、境内全域をギャラリーとする総社宮へ「みにこん？祭」を20日間にわたって開催し、地域の皆さまの好評を博した。さらに平成17年4月には合併による新総社市の市長選を前に市長候補お2人にお出でいただき、地域住民の方々も参加する「堀家とまちづくり討論会」を実施するなど着実な調査・研究・広報活動を行ってきた。



堀家の正面からの写真



堀和平邸現況図

### 文化活動の成果

平成15年4月に私たちが堀家の活動を始めるまでは堀家の存在を知っている市民はいなかったと言ってもよいだろう。市も積極的に広報することはなく、寄付された堀家のご子孫のご意向とは違い建物は崩壊への道をたどっていた。

しかしこの2年間の活動によって近隣の方々を始め理解者は着実に増え、文化活動の場として整備することを求める声も聞かれるようになってきた。

昨年の「みにこん？祭」では旧商店街の15軒の商店が協賛してくださるなど連携の動きも出てきた。

また総社市に提出した提言書「総社市・堀家と旧市街地への構想計画」は近隣市町村の図書館や小学校、中学校、高校まで配布。さらにホームページで広く一般に公開しており、今や「堀家」と「総社のまちづくり」のバイブルというありがたい声も聞こえるまでになっている。今後もあせることなく着実に一步一步、堀家再生の実現に向けて活動を継続していきたいと考えている。

### 今後の課題と問題点

堀家の庭や建物内の清掃活動も随時行っているが会員の範囲に止まっている。

私たちの活動をもっと広く深く市民に知っていただき、もっと多くの方々に参加いただくための広報活動を行っていく必要がある。

厳しい財政状態の行政において文化への支出は後回しになってしまう。

今後は商店街との連携だけでなくさらに広く市民への働きかけを行っていかねばならないと痛感している。市民のパワーを結集して行政を動かすことが堀家再生を実現する道だと。そのためには私たちの活動の記録も体系的にきちんと残して行くことも大事な課題であると考えている。

●執筆者：林 正実

町並みミュージアム、記念館、ギャラリー…

市民団体 総社市に提言書

提言書を竹内市長に提出する林代表（左）

## 生かそう堀和平（洋画家）の生家

総社市総社の商店街に残る洋画家・堀和平（1841—92年）の生家の活用法を考える市民グループ「堀家住宅の利用を考える会」は26日、記念館やギャラリーとしての活用法などを盛り込んだ提言書を竹内洋二市長に提出した。

堀家は江戸後期の豪商で、白壁の蔵や格子戸など昔ながらの面影を残す市内でも数少ない建物。堀和平は県内洋画界の先駆者で、二〇〇二年に孫が「地域の文化振興に役立ててほしい」と市に土地と建物を寄付した。

同会は〇三年四月、市民有志や建築家らで結成。これまでになつたしの写真展やフォーラムなどを開き、住の視点で活用法を探ってきた。

提言によると、町家の面影が残る母屋は昔の写真や資料を展示する町並みミュージアムや和室がアトリエとして使った長屋と蔵は堀家記念館▽小さな蔵はギャラリーとして活用する―などとしている。そのほか、ゆるやかに曲がる道路と町家が立ち並び、昭和初期の雰囲気を残す商店街の再生案なども示している。

林正実代表は「堀家を核に、散策したいと思うような町並みにしたい」と希望。竹内市長は「周辺住民や財政状況を考えつつ検討したい」と話していた。

平成16年2月28日 山陽新聞より